

景気動向調査結果報告書 【やお景況レポート】

2019年 第Ⅱ・四半期(4～6月) VOL. 93

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 消費税軽減税率制度導入に伴う影響について	12
4. 経営上の問題点・業界の動向など	13

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2019年9月実施）の調査で92回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業650社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が24.6%、非製造業が23.2%、全体では25.9%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回答率
金属製品	162	42	25.9%
機械器具	196	48	24.5%
その他製造業	292	70	24.0%
製造業計	650	160	24.6%
建設業	120	27	22.5%
卸売業	55	14	25.5%
小売業	55	5	9.1%
サービス業	120	26	21.7%
非製造業計	350	72	20.6%
合計	1,000	232	23.2%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	377	81	21.5%	246	43	17.5%	623	124	19.9%
20～49人	170	52	30.6%	67	21	31.3%	237	73	30.8%
50～99人	55	17	30.9%	19	5	26.3%	74	22	29.7%
100～299人	34	7	20.6%	12	2	16.7%	46	9	19.6%
300人以上	14	3	21.4%	6	1	16.7%	20	4	20.0%
合計	650	160	24.6%	350	72	20.6%	1,000	232	23.2%

【調査結果の総括】

～景気停滞感強まる八尾～

4～6月期の八尾市の業況判断D I¹は全産業で10と、前回調査から5ポイント悪化した（2019年3月=15→2019年6月=10）。D I水準は高めを維持しているものの景気回復ペースは鈍化した。業種別にみると、製造業は前回調査から2ポイント悪化し（3月=9→6月=7）、非製造業も15ポイントの悪化（3月=29→6月=14）となった。昨年末以降の米中貿易摩擦やEU離脱問題の混迷などを背景とした海外経済の先行き懸念の強まりが、継続して製造業を中心に企業マインドを下押しているとみられる。一方、非製造業では、昨年の自然災害に関連した物流混乱の収束や災害復旧工事需要などから、建設業の好調がみられ、製造業の落ち込みを補う形となった。

D Iの推移からここ1年ほどの八尾の景気動向を振り返ると、2018年は海外経済の先行き不透明感が燦り続けるなか、秋以降は、自然災害等の影響による景気下押しは一時的にとどまり、一旦は改善したものの、2018年末ごろから2019年にかけて、米中貿易摩擦の激化などから海外経済の減速感が急速に強まるなか、製造業の景況感は頭打ちとなった。

図1. 業種別天気図(景気水準)

		2018年7～9月期		2018年10～12月期		2019年1～3月期		2019年4月～6月期		天気図 前回比較
全産業			30		26		15		10	
製造業			28		22		9		7	
	金属製品		11		26		10		▲ 3	
	機械器具		39		20		4		15	
	その他の製造業		33		23		12		7	
非製造業			34		35		29		14	
	建設業		37		53		28		25	
	卸売業		▲ 16		22		31		6	
	小売業		60		50		20		±0	
	サービス業		45		22		33		8	

¹ D Iは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断D I」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断D I」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²(2019年6月調査)における全国および近畿の業況判断DI(全産業・全規模)と比較すると前回調査より悪化し、全国、近畿がそれぞれ2ポイント、3ポイントであった。八尾においても5ポイントの悪化で、全国・近畿と比べて悪化の度合いが大きい。なかでも製造業の悪化幅が全国(4ポイントの悪化)、近畿(2ポイントの悪化)、八尾(2ポイントの悪化)と拡大した(図2～4)。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

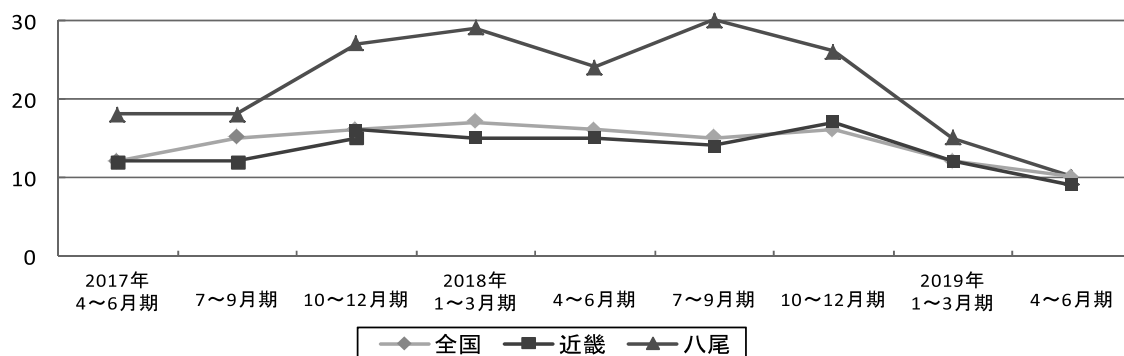


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

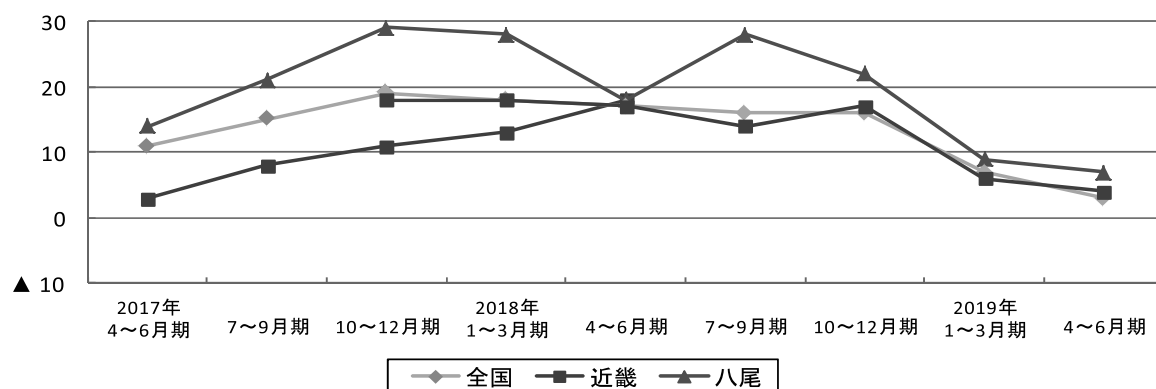
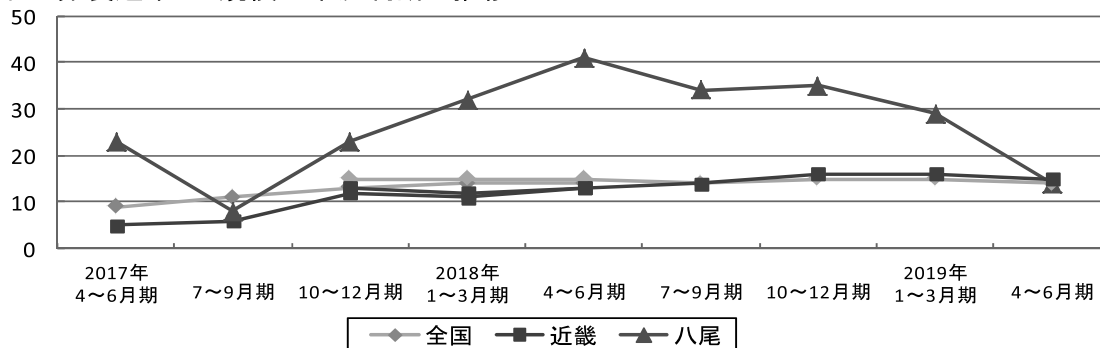


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



(資料) 日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のDI³で確認すると（図5～6）、業況の悪化を背景に製造業の「生産額」についてはマイナスに転じ、「設備投資額」についても前回調査に比べマイナス幅が拡大したが、「製品販売価格」はプラスが改善された。一方、非製造業は、全ての項目でマイナス幅が拡大した。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

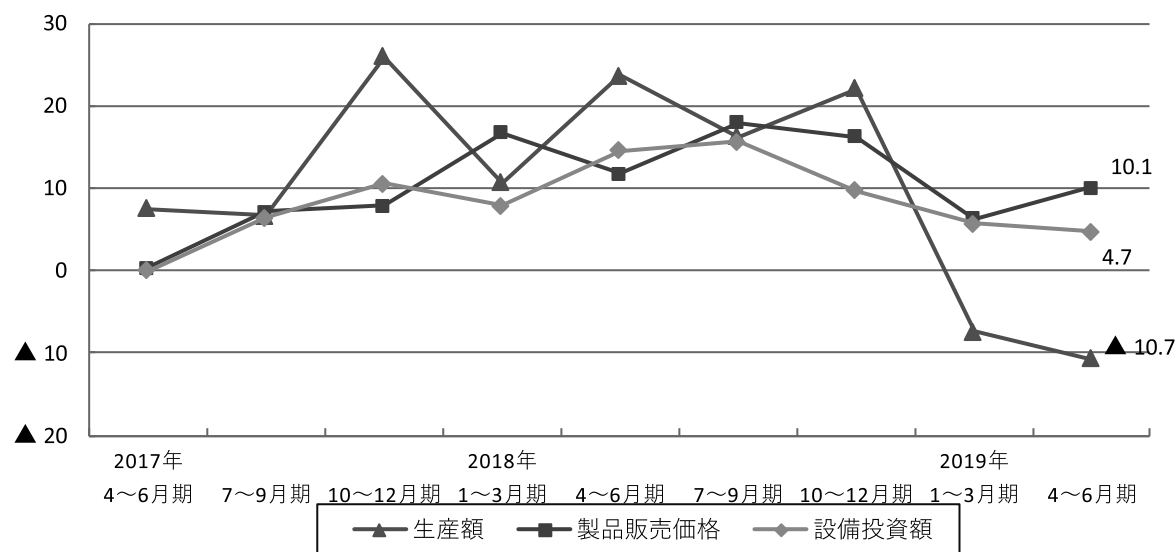
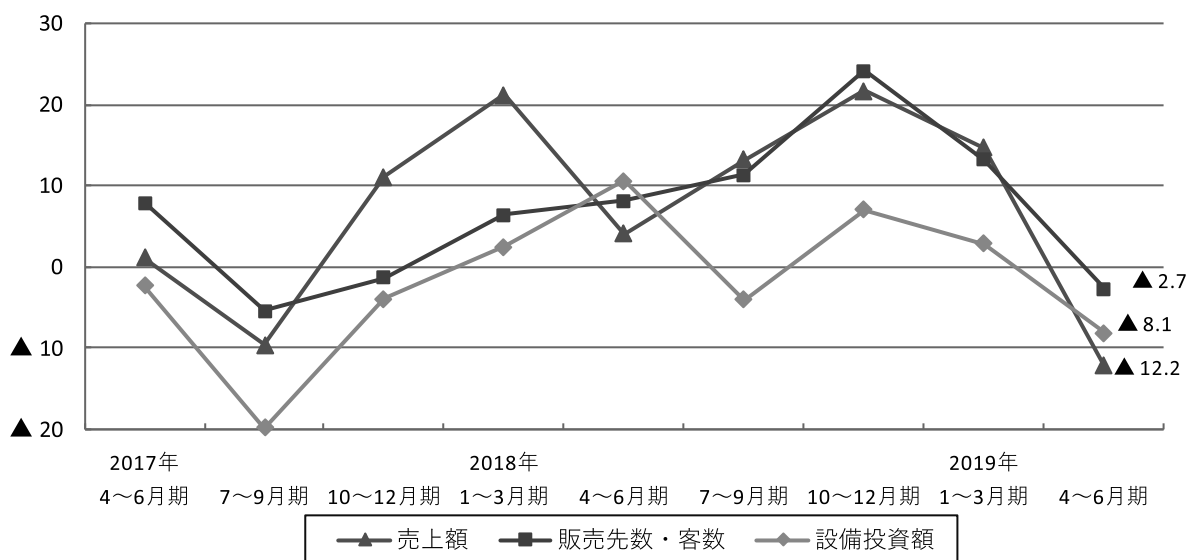


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



【生産額】

製造業の2019年4～6月期における生産額DI（前期比、「増加」－「減少」）は▲16.3とマイナス（減少超）で推移した（前々回12.6→前回▲14.8→今回▲16.3）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移した。

表3. 生産額(前期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	42	16.7	40.4	42.9	▲ 26.2	▲ 13.5
	機械器具	48	20.8	47.9	31.3	▲ 10.5	▲ 18.0
	その他製造業	70	22.9	40.0	37.1	▲ 14.2	▲ 13.5
	製造業計	160	20.6	42.5	36.9	▲ 16.3	▲ 14.8

前年同期と比べた生産額DIでも、▲8.2と（減少超）が続いた（前々回22.1→前回22.1→今回▲7.4）。

表4. 生産額(前年同期比)

表1：生産額（前年同期比）							
業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比（%）			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	42	21.4	40.5	38.1	▲ 16.7	▲ 3.8
	機械器具	47	29.8	36.2	34.0	▲ 4.2	▲ 22.0
	その他製造業	70	28.6	37.1	34.3	▲ 5.7	0.0
	製造業計	159	27.0	37.7	35.2	▲ 8.2	▲ 7.4

【出荷額】

4～6月期の出荷額DI（前期比、「増加」－「減少」）は▲18.8と、マイナス（減少超）が続いた（前々回10.4→前回▲17.0→今回▲18.8）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移した。

表5. 出荷額

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	42	14.3	40.5	45.2	▲ 30.9	▲ 9.7
	機械器具	48	20.8	43.8	35.4	▲ 14.6	▲ 26.0
	その他製造業	70	22.9	40.0	37.1	▲ 14.2	▲ 16.2
	製造業計	160	20.0	41.2	38.8	▲ 18.8	▲ 17.0

【製品在庫】

4～6 月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲7.5 とマイナス（過剰超）幅が縮小した（前々回▲0.8→前回▲3.4→今回▲7.5）。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスで推移した。

表6. 製品在庫

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	42	2.4	90.5	7.1	▲ 4.7	▲ 7.7
機械器具	48	6.3	83.3	10.4	▲ 4.1	4.0
その他製造業	70	1.4	85.7	12.9	▲ 11.5	▲ 5.4
製造業計	160	3.1	86.3	10.6	▲ 7.5	▲ 3.4

【原材料仕入価格】

4～6 月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は 27.5 と、プラス（値上超）が続き、価格上昇傾向である（前々回 46.7→前回 36.9→今回 27.5）。業種別では、すべての業種がプラスで推移した。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	42	23.8	73.8	2.4	21.4	32.7
機械器具	48	37.5	54.2	8.3	29.2	36.0
その他製造業	70	32.9	64.3	2.9	30.0	40.5
製造業計	160	31.9	63.7	4.4	27.5	36.9

【製品販売価格】

4～6 月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は 6.9 と、プラス（値上超）が続き値上げ傾向は持続している（前々回 5.2→前回 2.3→今回 6.9）。業種別では、すべての業種がプラスで推移した。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	42	9.5	85.7	4.8	4.7	0.0
機械器具	48	12.5	87.5	0.0	12.5	▲ 8.0
その他製造業	70	8.6	87.1	4.3	4.3	10.8
製造業計	160	10.0	86.9	3.1	6.9	2.3

前年同期と比べた製品販売価格D I も 10.1 とプラスであった（前々回 16.2→前回 6.2→今回 10.1）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	42	19.0	78.6	2.4	16.6	11.5
機械器具	47	12.8	82.9	4.3	8.5	2.0
その他製造業	70	10.0	87.1	2.9	7.1	5.4
製造業計	159	13.2	83.7	3.1	10.1	6.2

【 採算状況 】

4～6 月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲21.3 とマイナス（悪化超）が続
き、採算面は厳しい状況が続いている（前々回▲11.1→前回▲14.7→今回▲21.3）。業種別では、
すべての業種がマイナスで推移した。

表10. 採算状況

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	42	4.8	69.0	26.2	▲ 21.4	▲ 15.4
機械器具	48	6.3	70.8	22.9	▲ 16.6	▲ 24.0
その他製造業	69	5.8	63.8	30.4	▲ 24.6	▲ 8.1
製造業計	159	5.7	67.3	27.0	▲ 21.3	▲ 14.7

【 資金繰り 】

4～6 月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲8.7 と、マイナス（悪化超）と
なった（前々回▲2.9→前回▲6.2→今回▲8.7）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移
した。

表11. 資金繰り

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	42	7.1	71.4	21.4	▲ 14.3	▲ 13.4
機械器具	48	10.4	79.2	10.4	0.0	▲ 6.0
その他製造業	70	10.0	68.6	21.4	▲ 11.4	▲ 1.4
製造業計	160	9.4	72.5	18.1	▲ 8.7	▲ 6.2

【 受注状況 】

4～6 月期の受注状況DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲23.8 とマイナス（悪化超）となった（前々回▲3.7→前回▲18.7→今回▲23.8）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移した。

表12. 受注状況

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	42	9.5	47.6	42.9	▲ 33.4	▲ 26.9
機械器具	48	16.7	47.9	35.4	▲ 18.7	▲ 12.5
その他製造業	70	12.9	52.8	34.3	▲ 21.4	▲ 5.0
製造業計	160	13.1	50.0	36.9	▲ 23.8	▲ 3.7

【 設備投資額 】

4～6 月期の設備投資額DI（前年同期比、「増加」－「減少」）は5.0 と、プラス（増加超）で推移しており、設備投資は拡大傾向が持続している（前々回9.7→前回5.7→今回5.0）。業種別では、機械器具が±0 となったが、金属製品、その他の製造業はプラスに転じた。

表13.設備投資額

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	42	21.4	64.3	14.3	7.1	7.7
機械器具	47	12.8	74.4	12.8	0.0	16.0
その他製造業	70	22.9	61.4	15.7	7.2	▲ 2.7
製造業計	159	19.5	66.0	14.5	5.0	5.7

【 向こう3カ月の景況 】

4～6 月期における向こう3カ月の景況判断DI（「好転」－「悪化」）は▲24.4 と、マイナス（悪化超）に転じた（前々回▲18.4→前回▲33.6→今回▲24.6）。業種別の内訳をみると、全ての業種でマイナスとなった。

表14.向こう3カ月の景況

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	42	11.9	50.0	38.1	▲ 26.2	▲ 40.4
機械器具	48	12.5	50.0	37.5	▲ 25.0	▲ 52.0
その他製造業	70	14.3	48.6	37.1	▲ 22.8	▲ 16.2
製造業計	160	13.1	49.4	37.5	▲ 24.4	▲ 33.6

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



4～6月期の状況を各種DI（前期比）でみると、売上額はマイナス（減少超）となったものの、工事引合件数や受注状況はプラス（増加超、好転超）が続き、事業環境は良好である。資材仕入価格や労務費はプラス（値上超）であるが、受注単価が±0、採算状況がマイナス（減少超）に転じた。向こう3カ月の景況はプラス（好転超）となっており、総じてみれば景況感は良好である。

前年同期比DIでみても、設備投資額はマイナス（減少超）なものの、売上額、受注状況もプラス（増加超）が続いている。

表15.建設業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
前期比	売上額	28	25.0	39.3	35.7	▲ 10.7	18.7
	資材仕入価格	28	39.3	53.6	7.1	32.2	62.5
	労務費	28	32.1	60.8	7.1	25.0	40.6
	工事引合件数	28	39.3	42.8	17.9	21.4	18.9
	受注単価	28	7.1	85.8	7.1	0.0	▲ 6.0
	採算状況	28	10.7	71.4	17.9	▲ 7.2	0.0
	資金繰り	28	3.6	78.5	17.9	▲ 14.3	3.1
	受注状況	28	25.0	50.0	25.0	0.0	12.5
	向こう3カ月の景況	28	28.6	60.7	10.7	17.9	9.3
前年同期比	売上額	28	35.7	32.2	32.1	3.6	15.6
	受注状況	28	32.1	42.9	25	7.1	12.5
	設備投資額	28	3.6	78.5	17.9	▲ 14.3	6.2

卸売業

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



4～6月期を前期と比べると、資金繰りが±0と増勢の弱まりがみられ、全体的にマイナス幅が拡大した。商品仕入価格、商品販売価格がプラス（増加超）を維持しているが、他の項目については、マイナス（悪化超）に転じており、先行きに対する懸念が依然として強まっている状況である。

前年同期とのD Iの比較でみると売上額が±0のものの、販売先数・客数、設備投資額ともにプラス（増加超）を維持している。

表16.卸売業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
前期比	売上額	15	13.3	53.4	33.3	▲ 20.0	0.0
	販売先数・客数	15	6.7	93.3	0.0	6.7	18.8
	客単価	15	6.7	80.0	13.3	▲ 6.6	6.2
	商品仕入価格	15	26.7	66.6	6.7	20.0	12.5
	商品在庫	15	0.0	86.7	13.3	▲ 13.3	0.0
	商品販売価格	15	20.0	73.3	6.7	13.3	12.5
	採算状況	15	6.7	80.0	13.3	▲ 6.6	0.0
	資金繰り	15	6.7	86.5	6.7	0.0	6.2
	粗利益率	15	13.3	66.7	20.0	▲ 6.7	▲ 6.2
	向こう3ヵ月の景況	15	6.7	60.0	33.3	▲ 26.6	▲ 18.8
前年同期比	売上額	15	33.3	33.4	33.3	0.0	18.7
	販売先数・客数	15	26.7	66.6	6.7	20.0	12.5
	設備投資額	15	13.3	80.0	6.7	6.6	18.8

小売業

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



4～6月期の各種D I（前期比）は、商品仕入価格はプラス（増加超）、商品販売価格は±0となったが、その他の項目はマイナス（減少超）となり、先行きの見通しが懸念される。

前年同期との比較では、売上額、販売先数・客数ともにマイナス（減少超）となり、悪化している。設備投資額は±0と横ばいにとどまった。

表17.小売業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
前期比	売上額	5	0.0	20.0	80.0	▲ 80.0	40.0
	販売先数・客数	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	60.0
	客単価	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 60.0
	商品仕入価格	5	60.0	40.0	0.0	60.0	20.0
	商品在庫	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	▲ 40.0
	商品販売価格	5	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	採算状況	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 20.0
	資金繰り	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0
	粗利益率	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0
	向こう3ヵ月の景況	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 40.0
前年同期比	売上額	5	0.0	20.0	80.0	▲ 80.0	0.0
	販売先数・客数	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	60.0
	設備投資額	5	0.0	100.0	0.0	0.0	40.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



4～6月期を前期と比べると、客単価が±0であったが、全ての項目でマイナス（減少超）となった。

前年同期との比較でも、全ての項目でマイナス（減少超）に転じた。

表18.サービス業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
前期比	売上額	26	26.9	38.5	34.6	▲ 7.7	0.0
	客数	26	19.2	50.0	30.8	▲ 11.6	6.7
	客単価	26	19.2	61.6	19.2	0.0	6.7
	採算状況	26	23.1	50.0	26.9	▲ 3.8	0.0
	資金繰り	26	11.5	57.7	30.8	▲ 19.3	0.0
	粗利益率	26	11.5	53.9	34.6	▲ 23.1	0.0
	向こう3ヵ月の景況	26	7.7	61.5	30.8	▲ 23.1	▲ 13.3
前年同期比	売上額	26	19.2	38.5	42.3	▲ 23.1	13.3
	客数	26	15.4	53.8	30.8	▲ 15.4	0.0
	設備投資額	26	19.2	50.0	30.8	▲ 11.6	33.3

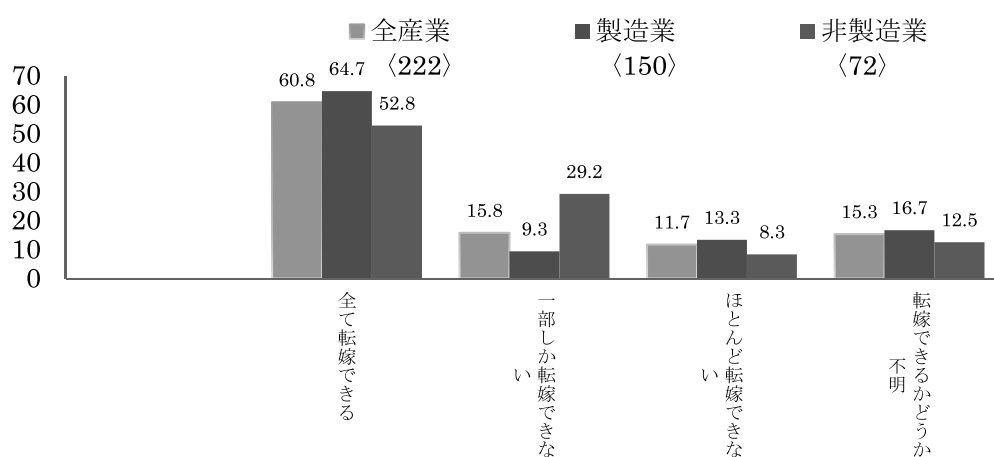
3. 消費税軽減税率制度導入に伴う影響について

今回の調査では、人材の定着と、経営上の関心事・課題について調査した。

(1) 貴事業所の準備状況について

消費税軽減税率制度導入に伴う貴事業所の準備状況について尋ねたところ、全体（回答事業所数は 222）では、「準備は完了している」は全産業の事業所の内 30.2%を占め、製造業・非製造業ともに同割合を占めた。

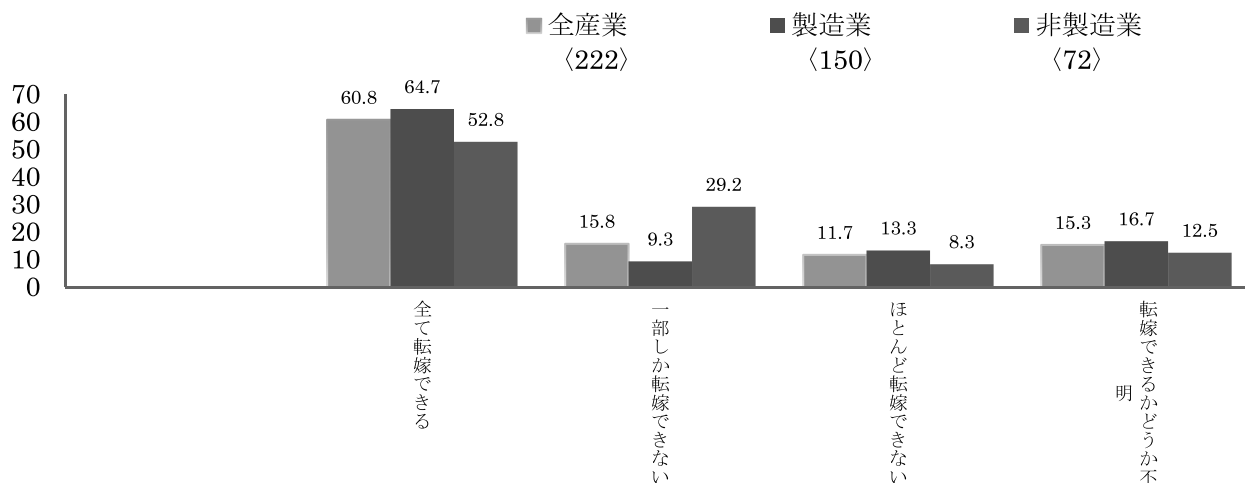
図 7. 離職の状況（業種別）（単位：％）



(2) 消費税増税分の転嫁について

消費税増税分の転嫁について尋ねたところ、全体（回答事業所数は 222）では、「全て転嫁できる」（60.8%）、「一部しか転嫁できない」が 15.8%となった。

図 8. 消費税分の転嫁について（業種別）（単位：％）



4. 経営上の問題点・業界の動向など

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	全ての商品が10月より消費税10%になるよう設定が完了している。
製造業	A	消費税が上がれば負担が増えます。しかし仕方がないと思います。
製造業	A	米中貿易摩擦による景気低迷、その他、中国経済の減速。
製造業	A	貿易摩擦による余波の影響か異常気象の影響か、工業関係の需要が不透明である。
製造業	B	消費税増税の準備はしているが、軽減税率は対象でないので準備をしていない。
製造業	A	10月以降、増税の影響がどの程度、日々の受注にあらわれるか全く分かりません。
製造業	A	製造面でも地産地消できる体制になればと願います。現状は海外に流れる仕事が多いので。国内生産が増えればと思います。
製造業	B	景気がいつ好転するのかとても不安。
製造業	A	軽減税率は必要と思わない。
卸・小売業	B	食品の為、消費税率は今まで通りだが、仕入れ品（段ボール、袋等）の転嫁を価格反映できるか微妙なところ。
サービス業	B	9月に駆け込み需要があるのか、増税後消費の落ち込みがないか懸念しています。
サービス業	B	景気動向に影響が心配される。

（注1）規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

（注2）コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2019年6月時点での表現である。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

**八尾市 経済環境部産業政策課**

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>